

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 思考力、判断力、表現力等 読むこと(1)ウ	イ 思考力、判断力、表現力等 書くこと(1)ウ
文章の内容に着目して読み、目的に応じて、必要な情報を見付けること。	自分の思いや考えが明確になるように書き表し方を工夫すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
低学年	<p>ア 文章中の重要な語や文を考えて選び出すことに課題がある。</p> <p>イ 事柄の順序に沿いながら、前後の語句や文のつながりを考えながら書くことに課題がある。</p>	<p>ア 文章中の重要な語や文を読み取るために、時間や事柄の順序に関わる語句に着目させながら整理する。</p> <p>イ 語と語や文と文の続き方に気を付けながら、内容のまとまりが分かるように書けるようにする</p>	<p>ア 年間を通して</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア 色を分けて線を引いたり、□で囲ったりすることで、重要な語や文を選び出すことができるようになった。</p> <p>イ 互いに対話をすることによって、内容のまとまりを意識して書くことができるようになった。</p>
中学年	<p>ア 目的を意識して、中心となる語や文を見付けることが課題である。</p> <p>イ 自分の考えと理由や事例との関係を明確にして書くことに課題がある。</p>	<p>ア 中心となる語や文を見付けるために、段落相互の関係を考えながら、筆者の考えとその理由、具体的な事例を読んでいくようにする。</p> <p>イ 理由や事例を示す表現を用いて書けるようにする。</p>	<p>ア 年間を通して</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア 筆者の考えと理由、具体的な事例にラインを引き区別することで、大切な言葉や文を見付けることができるようになった。</p> <p>イ 自分の考えやその理由、事例を示す表現を書く活動を繰り返し行うことで、関係を理解し、意識しながら書くことができるようになった。</p>
高学年	<p>ア 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなど、必要な情報を見付けることに課題がある。</p> <p>イ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことに課題がある。</p>	<p>ア 目的に応じた情報を取捨選択するために、事実と感想を区別したり、文章と図表を結び付けたりして読むようにする。</p> <p>イ 文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別して書いているかを確認する場面を設定する。</p>	<p>ア 年間を通して</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア ワークシートを活用し、事実と感想をサイドラインで分けたり、文章と表のつながりを線で結んだりするなど、必要な情報を見付けることができるようになった。</p> <p>イ 自分が書いた文章を確認する場面を設定したことで、事実と感想、意見とを区別して書くことができるようになった。</p>

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

【協働的な学び】

全学年 一人 1 台端末（ロイロノート等）の画面配信により資料を提示する。
友達と考えを共有・交流する。

【個別最適な学び】

低学年 書字に困難がある児童には、一人 1 台端末を活用し、組み立てメモ等を作成する。

説明文の学習では、一人 1 台端末を活用し、観点となる重要な語句に線を引き、まとめる。

中学年 思考ツールとして一人 1 台端末を活用し、気付いたことや考えたことを分類・整理する。

高学年 思考ツールや目的に応じた情報の取捨選択のために、一人 1 台端末を効果的に活用し、分類・整理したり結び付けたりする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

全学年

- ・児童の言葉を基にして、学習計画を立てる。
- ・文章を理解したことや考えたことを友達に伝える時間を設定する。
- ・めあてを明確にし、学んだことを振り返る時間を設定する。